

川越けいじの政治目標

- 子育て支援策の更なる拡充
- 社会福祉の充実した街づくり
- 救命救急体制の整った街づくり
- 犯罪の無い安全な街づくり
- 活力と優しさに満ちた街づくり
- 豊かな心と健全な身体を育む教育

市議会報告

自由民主党 新 政 会
鹿兒島市議会議員 川越桂路
〒892-8677 鹿兒島市山下町11-1
TEL 216-1436 FAX 227-7955
www.kawagoe-keiji.jp
e-mail : info@kawagoe-keiji.jp

4月から「こども未来局」新設し子育て支援など更に推進

一般会計当初予算過去最高額の2,771億1,100万円



利便性向上が期待されます

市税などの納付手段の多様化を図るため、スマートフォン等を活用したモバイル決済サービスの導入に取り組みます。(令和3年4月開始予定)

●コンビニ納付・モバイル決済サービス事業 (1千5百万円)

また、児童福祉や子育て支援の更なる推進を図るとともに、児童相談所の設置に向けて子供と家庭に対する施策を総合的に推進するため、「こども未来局」を新設します。

以下、新規事業を中心にピックアップしてご説明致します。

令和二年第一回定例会が、二月十日から三月十八日まで、三十八日間の会期で開かれ、一般会計当初予算を始めとする議案を議決致しましたので、川越けいじがその概要をご報告致します。

一般会計の当初予算は、2,771億1千100万円と、五年連続で前年度を上回る過去最高額となり、本市の喫緊の課題に対応し、まちの総合力を高めるための積極予算となっております。

●国際交流センター 管理運営事業 (7千4百万円)
加治屋町に完成した国際交流センターの運営を本年4月から開始。本市の国際交流の拠点として各種事業に取り組みます。

●産婦支援小児科連携事業 (9千2百万円)
産婦を継続してサポートするため、小児科医等を安定的に確保するため、保育士の就業継続支援として、法人等が保育士のために宿舎を借り上げた経費に対して一部助成を行います。

●保育所等業務効率化推進事業 (1千8百万円)
保育士の負担軽減を図るため、保育所等で業務のICT化を行うために必要なシステム

●国際理解教育の推進事業 (1億7千6百万円)
小・中・高等学校に英会話活動協力員や外国語指導助手を派遣するとともに、指導力向上等のため外国語指導コーディネーターを配置します。

●加治屋まちの杜公園仮称整備事業 (2億6千百万円)
本年10月、加治屋町の旧市立病院跡地に、中心市街地の回遊性の向上に資するとともに新たな潤いの拠点となる、加治屋まちの杜公園(仮称)の供用を開始します。

●学校トイレ洋式化事業 (9億6千5百万円)
快適な教育環境整備のため、学校のトイレ洋式化を推進します。

●若き薩摩の群像―整備事業 (7千万円)
鹿兒島中央駅東口駅前広場観光案内所設置事業 (3千9百万円)
令和の文化交流新時代の幕開けを受け、鹿



かわ ぐえ 市議会議員 川越けいじ(48)

「初心」を忘れず
市民の皆様のため
懸命に頑張ります。

●マンホールトイレ整備事業 (1千3百万円)
桜島大噴火を始めとする災害時に備え、避難所となっている長田中学校にマンホールトイレを整備します。

●公園維持管理業務 (7億6千9百万円)
公園の安全で快適な利用のため、公園砂場の砂のかくはんや消毒等を定期的に実施し、衛生管理対策を強化します。

●おたふくかぜ予防接種事業 (4千7百万円)
おたふくかぜの発生、まん延を予防するため、1歳以上2歳未満の幼児等を対象に、おたふくかぜワクチンの接種費用に対する助成(4千円)を行います。



石破 茂 元地方創生担当大臣との街頭演説



安倍晋三総理との街頭演説

この人口減少を踏まえた場合、今後生産人口の減少による税収の減や、高齢化の進行による社会福祉費の増大など、議会としても効率的



議員定数条例改正を提案説明後 取材を受ける川越けいじ(写真左)

市政に対する質問や相談など
お気軽にお寄せください。
鹿兒島市政に対する市民の皆さまからの質問や相談を受け付けております。安全・教育・子育て・福祉など、どのような事でも結構ですので、左記TEL・FAX・メールにお寄せください。
市議会議員 川越けいじ
TEL・216-1436 / FAX・227-7955
e-mail : info@kawagoe-keiji.jp

私たち政治家も自分ができるような考えを持ち、どのような活動をしているかを、様々な機会を捉えて知って頂くことが必要でしょう。民主主義社会においては、政治は有権者を映す鏡であり、基本的には、有権者の意識以上の政治が執り行われることはありません。有権者のシビな選択で政治家の質を高めることが必要です。



第85回 自民党大会で議長を務めました

改選後の議員定数は5人減

議員の資質向上のため確かな選択を

28歳で市民の皆さまの負託を受け、鹿兒島市議会へと送って頂いてから、五期二十年が過ぎようとしております。十六年の間に議会においては、議会運営委員会の委員長(通算五年)を始め、各種委員会の正副委員長を十六回歴任し、様々な経験を積み重ね、市民の皆さまの代弁者としてお役に立てたものと自負致しております。私は「単に批判する

だけでは政治は良くならない。単に批判するのではなく、自分がそこに身を置いて政治を変えよう」という想いで若くして政治の世界に入りました。この二十年、議会で議論を交わし、鹿兒島市当局とも正常な緊張関係を保ちつつ協力するなかで、様々な施策を実現して参りました。また今任期は、十年以上に渡り議論を続けたいにも関わらず結論に

至っていなかった議員定数に関しても、覚悟を持って取り組み、自ら議案を作成し提案したうえで、議員定数を五人削減することを実現致しました。直近の国勢調査において鹿兒島市の人口は599,814人と、既に60万人を割り込んでいることが判明し、この人口減少のスピードは鹿兒島市が策定した人口ビジョンの想定を越えるものでした。

加えて、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計では、本市の人口は2040年に約52万人、2060年には約41万7千人になると予想されており、将来の人口減少は避けて通ることのできない大きな問題であります。さらに、少子高齢化が進むことにより、六十五歳以上の人口比率、いわゆる老年人口比率は2040年において35.4%、2060年では39.5%との推計がなされておられ、これまでに経験したことのない高齢化に直面することになります。

この人口減少を踏まえた場合、今後生産人口の減少による税収の減や、高齢化の進行による社会福祉費の増大など、議会としても効率的な運営を目指す必要があると判断し、定数削減の議案を提出した次第です。今後、鹿兒島市議会としては、5人減員の45人という議会構成で、これまで同様、若しくはこれ以上以上に市民の皆さまのご意見が市政に反映されるように努めることも、市政のチェック機能を果たさなければなりません。

また、議員定数が減ることと議員の資質が向上することは必ずしも直結するものではありませんので、有権者の皆さまは、その候補者が本当に自分たちの代表者として相応しいのか、シビアに見極めをすることも大切なことだと思えます。自分たちが選んだ人物は議会内でのような発言をし、どのような考えのもと活動を行っているのか等、出来る範囲で正確な情報を取り、それを基に判断する必要があるのではないのでしょうか。

せん。また、議員定数が減ることと議員の資質が向上することは必ずしも直結するものではありませんので、有権者の皆さまは、その候補者が本当に自分たちの代表者として相応しいのか、シビアに見極めをすることも大切なことだと思えます。

「市民が安心して暮らせる、安全で活力のある鹿児島市！」を目標に5期20年

「若き薩摩の群像」史実に即した形に見直し

川越けいじは、平成19年9月議会において、「中央駅前の若き薩摩の群像」は、薩摩藩英国留学生19人のうち、土佐藩を脱藩して薩摩藩士となっていた高見弥一と長崎出身で薩摩藩の通訳であった堀孝之の2人が含まれていないのは、鹿児島の排他的な狭量さを象徴したものではないか」と、2人の追加建立を求める個人質問を行いました。



中央駅前の「若き薩摩の群像」

これに対し市当局は、追加の可否を検討すると答弁。ただ当時は「群像は、現在の形で完成した一つの芸術作品である」との理由から追加が見送られていましたが、今般、新年度予算にこの2人の像の追加建立予算が計上され、やっと「若き薩摩の群像」が史実に即した形となって追加建立されることになりました。

市立の全ての小・中・高にクーラー設置

川越けいじが、平成22年9月に行った代表質問において、鹿児島市立の小学校・中学校・高校の普通教室へのクーラー設置の方針が、初めて森市長から示されて以降、平成26年度までにすべての学校で設置が終了しました。これによりまして、猛暑に見舞われる鹿児島の夏場、特に窓を開けられない降灰時における教育環境の大幅な改善がなされ、現在も引き続き更新がなされております。



猛暑・降灰対策で鹿児島市内の小学校に設置された「クーラー」

川越けいじは、4子の父親として子ども達の教育環境の向上に意を用いており、今後も子育て世代の代弁者として教育現場の改善に努めて参ります。

改選後議員定数の5人削減を実現

川越けいじは、平成30年2月、伴う財政への影響等を見据えて現行の議員定数50を5減らす条例改正案の提出者として、当該議案を議長に提出しました。これは、十年以上に渡って懸案となっていた「議員定数問題」に終止符を打つべきとの覚悟で取り組んできたもので、その提出理由は、将来の人口減少やそれに伴う財政への影響等を見据えてのものでした。



質疑に答弁する 川越けいじ（平成30年3月9日）

そして、同年の3月議会において、議案提出者の川越けいじと削減案に反対する議員からの質疑や討論を経て本案は可決され、今年4月の市議選から定員が現行の50から45に削減されることになりました。

鹿児島市の危機管理体制強化

川越けいじは、市議会議員として「市民が安心して暮らせる鹿児島市づくり」を目指して全力で活動を続けておりますが、鹿児島市は市民の安全を守るための条例制定や庁内組織の強化を図っております。

平成17年10月には、犯罪や事故、自然災害などを未然に防止し、市民が安心して暮らせる安全なまちづくりについての基本理念や市・市民等・事業者の責務を定め、それぞれが連携協力することによって安全な地域社会の実現を図ることを目的とする「鹿児島市安心安全まちづくり条例」が制定されました。

また、世界基準の安心安全都市を目指して、WHO（世界保健機構）が推進するセーフコミュニティ国際認証の取得に取り組み、平成28年1月には、この認証を取得しました。



セーフコミュニティ認証式典（平成28年1月29日）

組織面では、平成17年4月に、「安心安全課」が、平成24年4月に「危機管理課」が発足し、平成30年4月には、新設された「危機管理局」の下にこの二つの課が配置され、地域安全・防犯対策・暴力団排除・防災・水防・桜島火山対策・原子力防災などを所管しています。

市役所東別館3階の「危機管理局」隣には「災害対策本部室」も設けられ、市民の生命財産を守るために万全の体制を整えています。

進む中心市街地の再開発と活性化

川越けいじは、市議会議員として「活力と優しさに満ちた鹿児島市づくり」を目指して懸命に活動を続けておりますが、今、中心市街地が大きく様変わりしようとしています。

加治屋町の旧市立病院跡地には、今年10月頃の供用開始を目指して、現在、急ピッチで「加治屋まちの杜公園（仮称）」の整備が進行中です。

また、旧市立病院駐車場跡地には、4月から供用開始の「国際交流センター」が、完成していることから、「加治屋まちの杜公園（仮称）」は、数多く市民の皆さま方に憩いの公園や災害時の避難場所として有効利用いただけるものと期待されています。

鹿児島中央駅東口、アミュプラザ前の中央町19・20番街区再開発事業につきましては、現在建設が進んでおり、今年の夏には商業・業務施設が先行オープンし、秋のフルオープンを目指しております。建物はアミュプラザの観覧車より高い高層ビルとなり、地下1階、地上24階建てで、商業施設などが入るほか、8階以上はマンションになる計画です。



加治屋まちの杜公園（仮称）完成予想図

天文館の旧高プラ跡地付近につきましては、千日町1・4街区市街地再開発組合が地上15階、高さ64mの複合ビルを新設することになっており、1～4階に商業施設、5～6階に業務・サービス施設、7～14階にホテル、15階にレストランや展望スペースを配置する予定です。



千日町1・4番街区完成予想図

また、4～5階には鹿児島市が「まちなか図書館（仮称）」を設置予定。加えて、県との定期賃借が終了し閉鎖となったドルフィンポート跡地につきましては、県が公募要綱を示し事業者公募を開始しております。鹿児島市にとっても、天文館地区にとっても非常に大切な場所ですので、鹿児島市の土地利用規制（売場面積1万㎡以下）や景観への配慮が必要になります。また、中央地区との融和性や回遊性が図られ天文館地区と共存出来る施設整備でなくてはなりません。鹿児島市の議員として注視するとともにしっかりとコミットして参ります。



かわ ごと

川越けいじ(48歳)

昭和46年12月	鹿児島市生まれ
	敬愛幼稚園・山下小学校・甲東中学校を卒業
平成 2年 3月	鹿児島玉龍高校 卒業
平成 6年 3月	青山学院大学 経営学部 卒業
4月	西日本銀行(現 西日本シティ銀行) 入行
平成10年12月	政治を志して西日本銀行 退職
平成12年 4月	鹿児島市議会 議員に28歳(最年少)で初当選
現在まで	5期連続当選
	議会運営委員会 委員長
	総務消防委員会 委員長
	環境文教委員会 委員長
	都市整備対策特別委員会 委員長などを歴任
現在	議会運営委員会委員長(通算5年)

「こども医療費助成制度」の堅持と更なる拡充

川越けいじは、4子の父親として子育てに携わるなかで、子育て家庭における、経済的負担軽減の重要性を常に感じております。

特に医療費など、時期を想定できない出費については、『助成制度を堅持しなくてはならない』という立場から、平成20年度に鹿児島県からの補助が打ち切られそうになった時、「鹿児島市に対し県から補助を廃止するとの打診があった」との情報を一早く入手し、平成19年

第3回定例会の個人質疑でその事実を明らかにし、県の対応を批判したうえで制度堅持を求め、乳幼児医療費助成制度(現在の「子ども医療費助成制度」)が堅持されました。

その後も子育て支援施策の拡充を求め、鹿児島市においては平成28年の4月から、小学校修了前までの医療費助成を、中学校修了前まで拡大しました。

また、現在は償還払い方式(立て替え払い)となっておりませんが、現物給付方式(窓口負担無し)が実現できるよう引き続き尽力して参ります。

改正時期	医 科	歯 科
昭和48年 7月	0歳児のみ	
昭和48年10月	6歳未満児まで	↓
昭和57年 7月	↓	4歳未満児まで
昭和59年 7月	6歳未満児まで	
平成19年 4月	小学校就学前まで	
平成25年 8月	小学校修了前まで	
平成28年 4月	中学校修了前まで	

市民の生命を守るドクターカーとドクターヘリ

川越けいじは、市議会議員になる前から鹿児島市民の大切な命を救うために「ドクターカー」の早期導入を訴え、平成12年4月に初当選してからは、個人質問をはじめ、あらゆる機会をとらえてドクターカー導入の必要性を説いて来ましたが、その結果、平成26年10月、ついに鹿児島市にドクターカーが導入されました。現在は、平日8:30～22:00、土日祝8:30～17:15までの運用となっておりますので、引き続き24時間完全運用を目指して更に努力を続けて参ります。

川越けいじは、ドクターカーとドクターヘリの連携による救急体制の必要性も訴えて来ましたが、平成23年12月には、鹿児島県の事業としてドクターヘリの運用も開始され、鹿児島市立病院の救急救命センターがその運用主体を担っています。

また、鹿児島市立病院では、ドクターカーやドクターヘリで救急現場に運べる「小型人工心肺装置」2台を導入し、担当医師らが訓練を重ねた上で、今年度から本格稼働させる計画になっています。



救命効果が高い「ドクターカー」



機中でも治療する「ドクターヘリ」

甲突川河畔の花見マナー大きく改善

毎年春になると、甲突川河畔では美しく咲き誇る桜を楽しむ市民で賑わいますが、折角の花見も深夜までの喧騒や散れ放題の大量のゴミなどが大きな問題となっていました。

川越けいじは、平成13年の6月議会から市当局にこの問題の抜本的な解決を要求していましたが、翌14年の春から、砂場や遊具付近での場所取り禁止や、宴会は午後10時までとし

10時以降は公園内を消灯すること、ゴミは原則持ち帰ることとし、やむを得ない場合は園内に臨時設置のゴミステーションに捨てることなどのルールが定められました。更に、花見期間中は市の委託を受けた警備員が右岸・左岸の公園内を巡回/パトロールすることで違反行為の抑止になっています。

これにより、この年の花見から付近住民らによる市や警察への苦情が激減して、皆が安心して花を楽しめるようになりました。

